

生きものシンフォニー

いのちかがやくなごや

令和2年12月

32号



特集

今年はWEBで! **2020**

なごや生物多様性センターまつり/ ユースひろば



例年開催される「なごや生物多様性センターまつり」では、生きものとの触れ合いや展示、ワークショップなどを通して、多くの市民の皆さんが楽しみながら“生物多様性”を学んでいます。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、初めてウェブにより開催し、市民団体や学校など、29団体がウェブサイトで活動紹介を行いました。

また、11月1日には、アウトドアタレントの鉄崎幹人さんを司会に迎え、生きものトークや高校生による発表などをライブ配信。例年とは、ひと味変わったセンターまつりとなりました。



CONTENTS

特集

WEB版
なごや生物多様性センターまつり／ユースひろば… P1～3

TOPICS 上下流交流による街なか林業体験 …………… P4

なごや生きもの一斉調査2020 ～バツタ編～ …………… P5

活動紹介 NPO法人 なごや東山の森づくりの会 …………… P6

掲 示 板 令和3年度 なごや生物多様性保全活動協議会助成金 助成団体募集 …………… P6

ライブ配信

なごや生物多様性センターの施設紹介

当センターで収蔵しているアライグマやハクビシンなどの仮剥製、スナメリの骨格標本の作り方などを紹介しました。



高校生による活動発表

来年からの発表に繋げたい!

東邦高校
科学研究部

今年は、透明標本から樹脂標本へパワーアップ! 知識ゼロの状態から努力を重ね、見事な標本を成功させました。今後は、爬虫類の標本や別の容器での製作に挑戦するそうです。



ウェブ掲載参加団体



身近な海のすばらしさを再発見!
「あいちの海」グリーンマップ
Aichi Sea Greenmap



外来種を駆除して
おいしく食べてあげる
なごや外来種を考える会(なごらい)



名古屋を流れる河川、
山崎川に親しもう!
山崎川グリーンマップ



コケを見えています…
苕むす会



みつばちと命のサイクルから学ぶ!
地球ハグ倶楽部
BeeHappy∞BeHappy Project



地産地消!
地球も人も良いこといっぱい!
名古屋市都市農業振興協議会
朝市青空市部会



ケガなどで保護される猛禽類の
救護活動
日本ワシタカ研究センター



持続可能な緑の循環
～竹炭づくりの役割～
大高竹の会(花水緑の会)



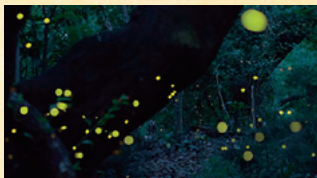
剪定枝、刈草を原料に堆肥を
製造しています
公益財団法人 名古屋港緑地保全協会



みんなでやろまい!
なごやの森づくり!
なごやの森づくりパートナーシップ連絡会



少しは貢献! 森の中で自然に
抱かれませんか
愛知守山自然の会



受け継がれる光
名古屋城外堀ヒメボタルを受け継ぐ者たち



名東自然倶楽部の活動紹介
名東自然倶楽部



サルを知りヒトを知る
～「本物」からの学び
公益財団法人日本モンキーセンター



名古屋港スナメリプロジェクト
名古屋港水族館

ースひろば

生物って
おもしろい!!

名城大学附属高校 自然科学部



庄内川の生態系調査開始から6年、その成果を発表。カダヤシの減少、モクスガニの増加理由などを考察し、環境改善に繋がりたいとのこと。また、骨格標本を通して生物の生態や特徴の紹介も行われました。



アウトドアタレント・鉄崎幹人さんの 生きものトーク



「これはどんな生きもの?」生徒と掛け合いながら、インスタ映えの植物や、いま話題の昆虫食、さらにはちょっと真面目な外来種問題まで、盛りだくさんのトークを繰り広げました。



緊張気味だったライブ配信も、終了後はリラックスモードに。

来年こそ外のステージで
会いましょう!!



WEB
参加



あいち・なごや生物多様性ベストプラクティス受賞
南陽高校・Nanyo Company部

フェアトレードや、環境に配慮した商品開発などの活動が評価されました。現在は食品ロス削減にも取り組んでいます。生徒たちは活動を通して、普段の生活でもより環境を意識して過ごしているそうです。



身近な自然にふれ、知り、皆でつなげよう!

名古屋自然観察会



生きものや生態系の保全に取り組む団体です

なごや生物多様性保全活動協議会



藤前干潟ふれあい事業へようこそ!

藤前干潟ふれあい事業実行委員会



アメリカザリガニを罠で捕獲しトリゲモ守る

NPO法人 なごや東山の森づくりの会



植物から空気の汚れを見てみよう!

名古屋環境局大気環境対策課



伝統野菜と地産地消

名古屋市緑政土木局都市農業課



身近な生きものすごい!を体験してみよう☆

名古屋市環境科学調査センター



環境について楽しみながら体験し、学ぼう!

名古屋市環境学習センター「エコバルなごや」



ユースひろば



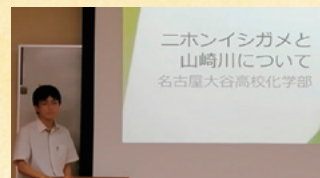
水田に生きるドジョウの保護活動

佐屋高等学校 科学部



東邦高校近隣の生き物調査と透明標本・樹脂標本の制作

東邦高等学校 科学研究部



ニホンイシガメと山崎川について

名古屋大谷高等学校 科学部



ムシャクロツバメジミの分布拡大

明和高等学校 SSH部生物班



筆から“Zoo” Synergy

名古屋商業高等学校 商品開発研究班



庄内川的环境調査

名城大学附属高等学校 自然科学部

活動紹介は、ウェブサイト『なごや生きものライブラリー』から閲覧できます。



伐採も実験も、クラフトも!

上下流交流による
街なか
林業体験

当センターでは11月14日、NPO法人森のなりわい研究所の伊藤栄一さんらを講師に迎え、小学5年生から中学2年生とその保護者を対象とした「街なか林業体験」を開催。親子で体験を通して、自然や森林への理解を深める1日となりました。



パカーンと
真っ二つに
薪割り体験!

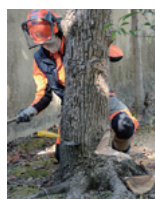
自然を活かす
クラフトアート♪

木曾川がつなく自然の恵み

「なごやの飲み水は木曾川から、では木曾川はどこから来ていますか?」と和やかに始まった体験当日。講師の伊藤さんをはじめ同研究所の皆さんは、名古屋の水源にもなっている飛騨川上流域(下呂市)で活動しています。午前中は、そんな伊藤さんたちの拠点である川の上流と、参加者らが住む下流のつながりの話からスタート。生活に欠かせない水をはじめ、木材などの物流のこと、アユは川をどう使っているかといった話を通して、上下流のつながりの深さを感じました。



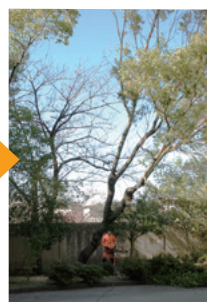
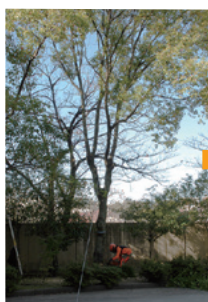
その後、南ひだ森林組合指導のもと、当センターのクスノキを植え替えに向けて伐採しました。参加者らも、チルホールと呼ばれる器具を操作し、伐倒のお手伝いへ。ミシミシと音がなり、倒れる瞬間には誰もがくぎ付けになっていました。そして、倒れた樹木からは爽やかな香りが!これはクスノキに含まれる成分で、防虫剤などにも使用されているものです。参加者らは倒れた木を観察したり、香りに癒されたり、自然の偉大さを体感していました。



倒す方向を考えて切り込みを入れます。



器具を操作すると、木に繋がれたワイヤーが引かれて、木が倒れます。



大迫力!木が倒れる様子に圧倒されました。

ワクワク!! 実験&クラフト体験

午後は、クスノキから香り成分「樟脳(しょうのう)」を取り出す蒸留実験を行いました。実験前には、クスノキにまつわる神話や利用方法などのトークも。その後、手順を確認し、太い幹、細い枝、葉っぱのどれが樟脳を多く抽出できるか予想していざ実践へ!親子で協力しながら取り組みました。

このほか、クスノキを使った葉っぱアートや、枝のキーホルダーづくり、薪割りなど、参加者は多彩なテーマを体験。身近な樹木の活用について楽しみながら学び、その大切さを知る機会となりました。



蒸気が管を通して
試験管の中へ



白い結晶が
「樟脳」です



なごや生きもの一斉調査2020 バッタ編

草むらや河原などで、ピョンピョンと大きく飛びはねる「バッタ」。身近な昆虫ですが、実はその種類は多く、見分けるのがとても大変です。

そんなバッタを対象に10月2日～4日、市内41カ所の公園や緑地などで一斉調査を開催。専門家や親子連れなども参加し、バッタの情報を収集しました。



身近な場所でバッタリ出会う昆虫

ひとくちに「バッタ」と言っても、その種類は豊富で、生息環境も少しずつ異なります。キリギリスやイナゴなどもバッタの仲間分類され、中には見分けにくい昆虫もいます。

今回、調査対象となったのは、トノサマバッタやショウリウウバッタ、オンブバッタなど、名古屋で見られる11種類。参加者らは、他の種類と見分けながら調査を実施。一体どれだけのバッタと出会えたのでしょうか。



参加者は、まず専門家からバッタの捕まえ方などの説明を受けました。バッタの目は側面にあり、背後から近づいてくる敵にすぐ反応します。そのため、素手や捕虫網を正面から覆いかぶせて捕まえるのがいいとのこと。そのうえ、飛び出したバッタは着地して2～3秒以内に追いつけば捕まえられるとのアドバイスを受け、いよいよ調査スタート。参加者らは草むらをかき分け、捕虫網を振ったり、飛び出したバッタをすぐに追いかけたり。草地、砂地などさまざまな場所を探していきました。



特徴を見分けながら捕獲

捕まえたバッタは、見分け方のシートを確認し、個体ごとにケースや透明のチャック袋に保管。触角の長さや太さ、頭が丸いか尖っているか、大型・小型など、調査対象のバッタと対象外のバッタの仲間の特徴をチェックしながら、次々と捕まえていきました。最初は「これは何バッタ?」と聞いていた子どもたちも、途中から「トノサマバッタだ!」「これはキリギリスだね」と、見分け方にも慣れた様子。ある調査場所では、11種類中8種類と半分以上を見つけることができました。その後は、バッタの観察を実施。参加者らは、三角や丸い顔、緑色や褐色の身体など、それぞれの違いをじっくり見比べながら夢中で観察していました。

この調査結果は、この後まとめて報告する予定です。



捕まえたバッタをじっくり観察



触角は長い?短い? バッタの種類を確認



同じ種類でも褐色と緑色のバッタがいるよ!

トノサマバッタ



NPO法人 なごや東山の森づくりの会

「なごや東山の森づくりの会」は2004年名古屋市の「なごや東山の森づくり2010構想」に基づき発足しました。2015年よりNPO法人となりました。市街地に残された森を市民共有の貴重な財産として市民・企業・行政の協働により守り育てる活動をしています。その原点は東部丘陵の自然を残そうと1981年に始まり今日まで続く平和公園自然観察会であり、1991年8月に平和公園と東山公園の樹林地の保全を願って実施した名古屋東部丘陵92地点、約150人による気温測定にあります。

東山の森は東山動植物園を含む総面積約410haの森です。樹林に覆われたなだらかな丘陵地が南北に広がる中に湿地も点在し、多くの生きものが暮らしています。一方では森の利用が途絶えて以降荒廃の

進んだ状況があり、生物多様性が失われる危機にさらされています。私たちはこの森で暮らす多くの生きものとともにあることを重んじ、自然と人との共生を目指しています。毎月の定例会で雑木林の手入れや湿地の保全・再生の作業をおこなうほか、10以上の班が活動しています。一例としては雑木林や竹林の整備をする班、田んぼや畑での農作業にあたる班、森の動植物の現状の調査をする班、森の恵みを生かして楽しむクラフト班などです。また子どもたちが森に親しむ機会を設けて持続可能な森づくりの次世代の担い手を育む活動にも力を入れています。会員の関わり方や楽しみ方はさまざまですが、それぞれのやりがいや達成感を感じながら続けています。



紙芝居「なぜ竹を切るの？」子ども森づくり隊



森づくり活動



雑木林の手入れ活動



ササユリ保全活動



灯火採集
(甲虫類・ガ類)

掲示板

令和
3年度

なごや生物多様性保全活動協議会助成金 助成団体募集

なごや生物多様性保全活動協議会では、自然環境保全の“後継者育成を目的とする活動”を支援することで、次世代の担い手づくりやこれからの自然環境保全活動の創出を応援しています。

令和3年1月5日から2月10日まで、令和3年度の助成団体を募集します。助成金交付要綱など、詳しくは協議会のウェブサイトをご覧ください。



協議会ウェブサイト <http://www.bdnagoya.jp>

問い合わせ・申し込み先

発行：名古屋市環境局なごや生物多様性センター

住所 〒468-0066 名古屋市天白区元八事五丁目230番地

電話 052-831-8104(平日 8:45~17:30) FAX 052-839-1695

E-mail bdnagoya@kankyokuyoku.city.nagoya.lg.jp

地下鉄塩釜口駅
2番または3番出口から
徒歩5分



なごや生きものライブラリー

なごや生きものライブラリー 検索

<https://ikimono.city.nagoya.jp/>



名古屋市公式ウェブサイト

<http://www.city.nagoya.jp/>

なごや生物多様性保全活動協議会

<http://www.bdnagoya.jp/>

生きものシンフォニーのバックナンバーは、なごや生物多様性センターのウェブサイト「なごや生きものライブラリー」でご覧いただけます。